

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.76
2018.1



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

森を徘徊している“ホンドテン”

例年に比べ早めに雪が降り積もった森の中へ仕掛けていたセンサーカメラにホンドテンの姿が写っていました。顔は白く体は黄金に毛変わりし、一見優雅な姿ではありますが眼光鋭く、迂闊に目を合せたら一瞬怯んでしまいそうな「ハンター」そのもの。辺り一面が雪に覆われている森では頻りに動物の足跡を目にすることができますが、今冬を目撃数のナンバーワンはホンドテンです。ビジターセンターの玄関先にも時々訪問した足跡が残っていることがあります。時には隣接する日帰り温泉館のゴミ置き場を荒し、扉を開けた人を驚かせてもいますが、普段は警戒心の強いテンも身の危険を承知の上でやむを得ず潜り込んでいるのでしょう。雪上で気まぐれに残っているかのように見える足跡からは、実は生きるために必死で食べ物を探している彼らの姿が浮かび上がってくるかのようです。

What is “hondoten”?

「本州に棲むテン」

イタチ科 40～50cm 前後
分布：北海道～九州

対馬にはツシマテン、北海道にはエゾクロテンが生息。単独性で、木登りが巧み。夜行性で日中は樹洞やヤブに潜んでいる。雪深い地域では雪の中に「テンの雪室ゆきむろ」と呼ばれるウロを掘って使うこともある。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



特徴はあるけど目立つことのない控え目な佇まい

網張から見える 山ノート

10 ページ目 かどほりやま 燧堀山

かどほりやま 燧堀山

標高：466.9m

位置（網張VCから）：南東

登山適期：積雪期※民有地のためマナーには十分注意

特色：鬼越峠の頂点に位置する山で、かつて火打石（燧石）を採掘できたことから山名がつけられた。北側に位置する鬼古里山と対座している。

小岩井方面から姥屋敷を經由してまもなく、開けた雪原の向こうに燧堀山がみえました。滝沢方面に下りる峠のちょっとした寡黙な門番のようです。この地で産出される石英系の鉱物は、「石コ賢さん」こと宮沢賢治も引き寄せました。童話『狼森と笹森、盗森』では、開拓を志す百姓たちが越えて来た山としてわざわざ表記がなされています。取材に訪れた日は曇り空でしたが、岩手山や滝沢市内をほどよい位置で展望できる好ロケーションでもあります。長いスパンで繰り返す火山活動と明治以後火打石を使わなくなった人々の暮らしの変化、それらを見届けてきた山は何か言いたそうでしたが、やはり寡黙なままでした。



この山で採れた希少な原石は、北上川を經由し遠く江戸まで運ばれた



☞ニホンリスが松ぼっくりの種子を食べた食痕、通称“エビフライ”。意外と動物の数も多いようで、山頂付近ではニホンカモシカの足跡も見かけた。



【火打石】石英の一種。玉髓※に似て不透明、灰白色・黒色・褐色で、これを鉄片に打ち合わせれば火を発する。古来、火灯道具として用いた。

※玉髓：石英の微小な結晶からなる鉱物。透明または半透明で色は白・灰・緑等含む不純物により異なる。



アミハリ・バース Vol. 19

11月の初旬、雪囲いの設置作業をしている時でした。10数羽の野鳥の群れが温泉館前のナナカマドに集まったかと思うと警戒して飛び立ち、ヤドリギのついた樹木付近で待機していました。彼らは木の実が大好きで、他の野鳥が敬遠するようなネバツとしたヤドリギの実も食します。粘ったフンをぶら下げながら飛び様子から「しりくさり（尻鎖）」という異古名も。仲間に尾と翼の一部が緋色のヒレンジャクがいます。裸眼では見分けが難しい両者ですが、大陸での分布域に関してキレンジャクは広く北半球の亜寒帯、ヒレンジャクはアムール川流域のみと異なります。しかし日本に渡ると一緒に行動する事もあるそうで、ヤドリギ好きとして類は友を呼ぶのでしょうか。

キレンジャク

科名：レンジャク科
全長：約 19.5cm
生態：冬鳥
分布：日本全国

鳴き声

チリチリチリ
チリリリリリ...



十和田八幡平国立公園内の温泉を訪ねて

十和田八幡平国立公園のテーマ～みちのくの^{せきりょう}脊梁～原生林が彩る^{せいひつ}静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場～山全体が白一色に覆われたこの季節、静かな奥山の湯治場はその魅力を一層増します。

網張温泉（番外編） 以前のこの欄で網張温泉が昔、「帝釈温泉」と呼ばれていたことに関し、当時の環境省レンジャーだった河村俊彦さんから、名前の由来についての考察を紹介しました。それに対して岩手山地区パークボランティアの米田良一さんから寄稿がありましたのでここに紹介いたします。

「帝釈」の地名と言うと、まず思い浮かぶのは、柴又の帝釈天・寅さん、矢切の渡しではないでしょうか。帝釈天の名を冠する山と言えば日光連山の帝釈山～女峰山や立山の別山（*今昔物語では帝釈山と呼ばれた）が代表的なものでしょう。その他、関東北部から東北南部的那須岳周辺、帝釈山脈には帝釈山の他に高倉山、足倉山、土倉山、大倉山、白倉山、門倉山、板倉山などが連なって存在します。網張周辺にも「倉」の付く山が多くあります。

関連しますが「クラ」は古くから山と谷の意で、山（岩峰）というのは今、挟られている所、谷（溪谷）は浸食で挟られている所を言います。全国に「倉」の付く山は350座位あり、岩手県には50座以上存在します。そのうち岩手山の西側と八幡平周辺には27座あります。

網張周辺の岩手山西側には、黒倉山、赤倉山などの外輪山があって山側が火口壁の大断崖（クラ）です。北西には上・中・下の倉がセットになった上倉山、中倉山、下倉山があり、共に片側はやっぱり大断崖の山です。周辺には鎌倉森のカマの刃のように鋭く細い崩壊と浸食を繰り返す青壮年期の山や犬倉山（後述）があります。西側には火口が西に傾いた大松倉山があり、尾根左下のコブが小松倉山です。西南方向には平ヶ倉沼のある平ヶ倉山や高倉山と三角錐の小高倉山があり、小高倉山の斜面は1993年アルペンスキー世界選手権の会場となりました。高倉の山名は全国に30座もあり、東北で20座、岩手県には6座あります。

「帝釈温泉」の湧口にそびえる犬倉山は単なる火山では無く、大崖の大岩山です。火口壁南側は破壊されています。この火口底が網張元湯で噴気がある硫黄泉です。

網張はアミ（部落）、ハリ（墾）で温泉地（部落）を開いた所という意味でしょうか。帝釈山脈の主峰、帝釈山の山頂には駒御堂権現が祭られており、我が秀峰岩手山には巖鷲大権現が祭られています。網張温泉（帝釈温泉）は帝釈天からの恵みの霊泉でありましょう。 岩手山地区パークボランティア 米田 良一 （*は編集部注）



厳冬の犬倉山から見下ろした網張元湯



ようこそ 網張へ ビジターさんにインタビュー

一月の巻

ビジターセンター北側にそびえる鎌倉森の人氣が、ここ最近高まっています。雪の無い時期は、背を越すネマガリダケが密生し、ツキノワグマたちの楽園となるので、入ることはできません。雪が積もった時期だけ尾根筋を通して登山が可能となります。本来は森林管理署の入林許可が必要なのですが、事故防止の観点からビジターセンターでは最低限、入山届の提出を呼びかけています。

そんな中、鎌倉森登山でビジターセンターに一番多く顔を出すのが雫石町の主婦、^{つちばし ちかみこ}土橋 智賀子さん。雪が降り始める11月から、雪解けで再びネマガリダケが立ち上がる5月まで、毎週のように鎌倉森に通います。今日は、山から降りてきた直後の彼女をつかまえてインタビューを試みました。

今日の鎌倉森はどうでしたか？「雪がしまっていてカンジキのツメが良く効き、天気が安定していたので、誰もいない大斜面を登って姥倉山までです。気温が低く、ダイヤモンドダストが舞っていました。」**一番好きな山は？**「冬の鎌倉森です。体にかかる負荷がちょうど良く達成感を味わえますから。一人で静かに登っていて雪を踏むサクサクという音が心地いいの。初めて鎌倉森を登ったのは大震災の起こる前で、姫神山で偶然出会った方から一人でも冬に登れる山があるよと教わったのがきっかけ。最初は怖いもの知らずで、登っていたけど山は知れば知るほど怖い所があるということがわかってきました。」**登山の都度ビジターセンターに顔を見せてくれますね？**

「山に行く時はいってらっしゃい、帰ってきたらおかえりなさいとスタッフが必ず声をかけてくれるのがすごく気持ちいいからかな。」**他のビジターセンターとの違い感じます？**「有名な登山基地近くのビジターセンターでは、客もスタッフも英語や中国語で話合っているのを耳にするけど、網張はきわめてローカルの、地元の人利用が多いですね。」**ビジターセンターへ望むことは？**「冬の雪を親子で楽しめるような工夫、例えばちょっとした雪像とか雪の滑り台とかあると楽しいね。」 **それ楽しそう！つくるのは誰？**



鎌倉森から下山してきた土橋さん

V C 行事 報告

冬の網張の森で クリスマス気分

12月23日開催 参加者42名



写真撮影：岩手山地区パークボランティア 阿部丕顕氏

冷え込んだ大気と真っ白な森は、本場フィンランドにいるような気分！

凍りついた木肌に付着した粘菌や、ミズナラの枝先の熊笹を見ながら、夏には入ることのできない森の奥を目指しました。

突然、ボランティアさん扮するサンタさんが登場、赤松の球果で作った可愛いクリスマスツリーを手渡してくれました。雪をまとったブナの木立の間を別のボランティアさんのハーモニカによるジングルベルの曲が流れます。

参加した皆が「ちょっぴり幸せ」という気持ちを共有した時間を過ごしました。

ようこそ！手づくり 展示に新しい仲間♪

フィールド情報ゾーンにツキノワグマが加わりました。きれいな頭骨を寄贈してもらったので、スタッフが口の開閉をできるように工夫しました。実際に触って見て下さい。題して「骨のクマさん」。



これからの
網張ビジター
センター活動
プログラム
(予定)



今しかできない 岩手の冬を満喫しよう！

いわて雪まつり参加行事 初めての人でも安心

「厳冬の岩手山展望台を目指して」スノーシュートレッキング体験

2月14日(水)～18日(日) 毎日実施 9:30～12:30

たきざわ自然情報センター 9:30集合 参加費大人500円 小学生300円

「網張の森 雪上ハイキング」伝統の輪かんじき体験(スノーシューも可)

2月～3月 毎週金・土・日(祝) 10:00～11:00

網張ビジターセンター 9:50集合 参加費小学生以上300円

◆現在開催中の網張ビジターセンター企画展◆ 1.5 - 2.28 ビジターセンター企画展示コーナー
—野鳥の姿に魅せられた三人衆の写真展—

❖「鳥撮りとりお Exhibition in Amihari 2」❖



「まるまる」キクイタダキ 上川 仁



「恐竜の末裔」ダイサギ 渡辺寛志



「大空の舞い」クマタカ 佐藤 仁

今回展示した作品は盛岡市内および近郊で撮影した野鳥の姿です。野鳥が幸せに暮らせる環境は人間にとっても幸せです。

標本的な写真よりも生き生きとした野鳥の姿をお楽しみ下さい。(出展者のことばより)

モモンガのつぶやき

先日、風除室で雪かきの道具をどけると一匹のヒメネズミがうすくまっています。氷点下の気温ながら体はまだ柔らかく今にも起き出しそう。

「館内展示のドングリをくすねていたのは君だったの？」

「さあ、そんな事もあったかなあ」

指先に乗る命との声にならない対話でした。(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆11月 1,324人 ◆12月 700人

ビジターセンター朝9時平均気温 ◆11月 -1.0℃ ◆12月 -6.4℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2(網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 9時～17時 冬期(11月から3月末まで) 毎週火曜日休館